

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

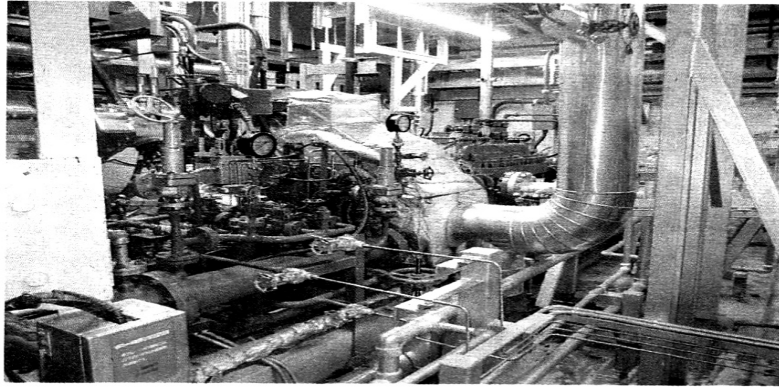
14

動いていた冷却装置

第一章「3・11」

3月12日未明、福島第一原発1、2号機中央制御室では応援に駆けつけた遠藤英由(51)ら当直長が集まっていた。1、2号機格納容器から蒸気を大気放出するベントを想定し、図面を広げ懐中電灯で照らしながら手順を確認していた。本来、ベントは制御室から操作できる。だが今は電源がない。ベントをするには原子炉建屋に入り、弁についたハンドルを手で回さなければならぬ。建屋は放射線量が上昇し1日深夜から入域禁止になっていた。被ばく量を抑えるため、どのル

天の助け



福島第一原発2号機と同型の冷却装置「RCC」―福島第一原発5号機(東京電力提供)

「回っているはずだ」
「でも確認してない」
RCCは原子炉から出る蒸気でポンプを回し原子炉内に冷却水を送り込む装置で、バッテリーで駆動する。作業管理グループの大野光幸(51)が全電源喪失の直前に起動させたはずだ。もしRCCで燃料冷却ができていなら、当面は1号機の対応に集中できる。
「動いているぞ！」
この情報は都内で午前3時すぎから2号機ベント実施の記者発表を始めた。RCC室は原子炉建屋地下にある。「行くしかないね」。その声を掛け合った遠藤とA班当直長が行くことになった。制御室を出発したのは12日午前2時だった。
全面マスクを装着し、ポリ塩化ビニール製のかっぱを着た。懐中電灯を手に原子炉建屋に入るための二重扉を開けると、蒸気が立ち込めていた。真っ暗で何の音もしない。ものすごく蒸し暑い。建屋に入った海水が熱い配管に触れて蒸発したのだと遠藤は考えた。
「動いているぞ！」
この情報は都内で午前3時すぎから2号機ベント実施の記者発表を始めた。RCC室は原子炉建屋地下にある。「行くしかないね」。その声を掛け合った遠藤とA班当直長が行くことになった。制御室を出発したのは12日午前2時だった。
全面マスクを装着し、ポリ塩化ビニール製のかっぱを着た。懐中電灯を手に原子炉建屋に入るための二重扉を開けると、蒸気が立ち込めていた。真っ暗で何の音もしない。ものすごく蒸し暑い。建屋に入った海水が熱い配管に触れて蒸発したのだと遠藤は考えた。